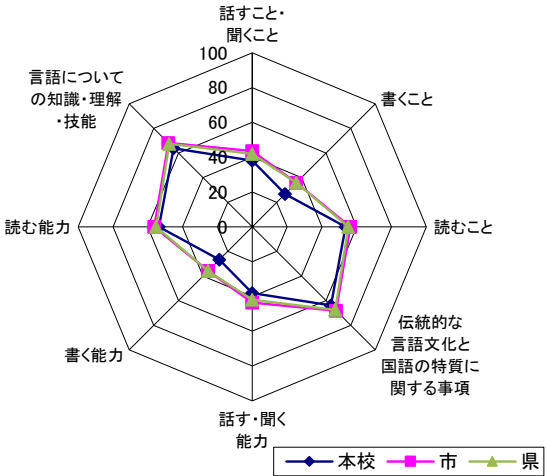


宇都宮市立清原東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	38.0	43.5	41.8
	書くこと	26.6	35.9	35.8
	読むこと	53.6	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.8	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	38.0	43.5	41.8
	書く能力	26.6	35.9	35.8
	読む能力	53.6	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	63.8	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率をやや下回っている。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行することについては市の平均正答率を下回り、今後の課題である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話したいことを明確にするために、項目を立てて話す内容を書き出したり、スピーチメモを作ったりすることによって、伝えたいことを整理して話す活動を多く取り入れる。 ・日常生活において、話し方、聴き方の指導を繰り返し行う。 ・学級活動において、司会や記録などの役割を設けた話し合い活動の充実を図る。
書くこと	●市の平均正答率を下回っており、特にこの領域に個人差が大きい。 ●招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述することや、意見を基に、招待状に入れるべき要素を選択することは、市の平均正答率を下回り、今後の課題である。 ○話し合いを基に、招待状に付け足す文を記述することの正答率は、市の平均正答率とほぼ同じである。	・日記指導を通して文章の書き方の習熟を図り、相手に伝わる文章を書くことを意識できるようにする。 ・大切なことを落とさずに文章をまとめる力が付くよう、朝の学習で文章をまとめる練習を取り入れていく。
読むこと	○市の平均正答率とほぼ同じである。 ○物語文において、登場人物の気持ちを想像して読むことや、登場人物同士の関係や役割をとらえることについては、市の平均正答率をやや上回っている。 ●文章と図を関係付けて読むことに課題がある。	・朝の読書、家庭での読書や音読を推進し、文章に親しむようにさせる。音読カードを活用し、音読の習慣化を図る。 ・説明文において、段落の相互関係を意識して読むことができるよう、繰り返し指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の書きについては、市の平均正答率を上回っている。 ○「遠足」を漢字で書くことができた児童が多かった。 ●「平等」の読み方が分からなかった児童が多かった。 ●簡単な単語をローマ字で書くことについては市の平均正答率を大きく下回っている。	・漢字練習をする際に、声に出して繰り返し読んだり、振り仮名を振らせることを徹底して指導する。漢字の習得については朝の学習の時間を充実させるとともに、家庭学習により定着させていく。 ・定期的にローマ字の練習プリントを行い、継続的に定着を図る。